

令和8年度

印西市民アカデミーだより

第2号

講座 3 : 歴史散策 ① 木下地区

5月16日（金）、第1回目の歴史散策を実施しました。

当日は曇り空で時折薄日が差し、涼しさを感じる中でのスタートとなりました。講師には、木下交流の杜歴史資料センターの所長をお迎えし、木下地区の歴史をたどる散策を行いました。

木下地区は、江戸から明治にかけて利根川水運の要衝として栄え、特に木下河岸は利根川水郷の宿場町として大いに賑わいました。現在では当時の建造物はほとんど残っていませんが、講師による丁寧な解説に、アカデミー生は熱心に耳を傾けながら、楽しく散策を進めました。

最初に訪れたのは、かつての旅籠「武蔵屋（国登録有形文化財）」。その外観から、当時の趣を感じ取ることができました。また、木下河岸跡では利根川の雄大な流れを眺めながら、当時の賑わいに思いを馳せました。

続いて、堤防を越えて、「吉岡まちかど博物館」へ。

ここは、かつての廻船問屋・吉岡家の土蔵を市民団体が整備した施設で、木下貝層から発掘された貝化石で作られた3本足の大きな灯籠にとっても驚かされました。



吉岡まちかど博物館



木下交流の杜歴史資料センター

さらに、平将門にまつわる伝承が残る「山根山不動尊」を訪れ、木下小学校下の小路を歩いて急な坂を上り、「木下交流の杜歴史資料センター」へ向かいました。

さらに、平将門にまつわる伝承が残る「山根山不動尊」を訪れ、木下小学校下の小路を歩いて急な坂を上り、「木下交流の杜歴史資料センター」へ向かいました。



上町観音堂

その後は、木下万葉公園にある「木下音頭の碑」を経て、12～13万年前に形成された貝化石を多く含む「木下貝層（国指定天然記念物）」へ。ここはかつてこの地が海であったことを実感できる場所です。

続いて訪れた「上町観音堂」には、鎌倉時代に造られたとされる銅造十一面観音立像（県指定文化財）が安置されており、講師より資料を使って説明していただきました。



木下せんべい

最後にアカデミー生は木下名物の煎餅づくりを間近で見学しました。木下せんべいは船運が盛んだった時代に保存食として食べられていたものが、時代とともに地域の名物として親しまれるようになったそうです。約3時間かけてゆっくりと木下の歴史を巡ることができました。